

令和 5 年度 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： 急性骨髄性白血病の多層的なエピゲノム・エピトランスクリプトームの理解に基づく治療標的探索
研究開発代表者名： 吉見 昭秀（国立研究開発法人国立がん研究センター 研究所 ユニット長）

本課題は、エピゲノム、エピトランスクリプトーム解析を得意とするカナダ側、スプライシング解析を得意とする日本側の相補的な共同研究により、急性骨髄性白血病のエピゲノム、エピトランスクリプトームを多層的に理解するために必要な技術的プラットフォームを確立するに至った。また、新たな RNA 修飾因子とそれに関わる酵素を発見し、検証実験を行った点について高く評価された。

一方で、急性骨髄性白血病におけるエピゲノム、エピトランスクリプトームの主な解析は細胞株を用いたものに留まり、臨床検体を用いた研究に至らなかった点が残念であった。今回得られた成果を基盤とし、がん研究・臨床応用においてより広い分野での交流を活発にされたい。総合的に、計画した成果をやや上回る成果が得られたと評価された。